

2013年度日本福祉文化学会第2回理事会・第1回評議員会議事録

期日：2013年9月28日（土）10：00～13：00

場所：立教大学池袋校舎第12号館2階会議室

〈理事会〉

1 開会

出席確認：出席理事 17名 委任状出席 2名 欠席理事 4名（定足数 12名）

規約第10条第2項に基づき定足数に達している旨、磯部事務局長より報告。

出席者名：河東田博・石田易司・和泉とみ代・島田治子・雨宮洋子・石井バーグマン麻子・磯部幸子・大澤澄男・梅津迪子・岡村ヒロ子・木村たき子・國光登志子・多田千尋・馬場清・平田厚・マーレー寛子・渡邊豊（順不同・敬称略）

欠席者名：安倍大輔、越前谷賢一、遠藤美貴、川田美由紀

2 議長選出

慣例として会長が理事会の議長を行うことに従い、河東田会長を議長として選出。

3. 前回理事会議事録の確認

原案通り承認される。

4. 理事会議事録署名人の選出

國光登志子氏、馬場清氏を選出。

5 協議事項

第1号議案 2013年度前期事業報告と後期事業予定

- ・事務局および各担当理事より説明。原案通り承認される。
- ・第24回全国大会東京大会：事務局より説明。参加者200名予定で開催予定。
- ・ブロック活動、各種委員会活動：各担当理事より説明。
- ・会議および事務局の活動：事務局より説明。

第2号議案 2013年度予算執行見込書

- ・事務局より説明。原案通り承認される。
- ・会費収入減および学会繰越金減少のため、支出を抑えるよう予算をたてている。
- ・刊行費については、より安い印刷業者を利用することにより研究誌等の印刷費を縮小する予定である。
- ・2013年度の一般会員の会費収入見込みは290万となっているが、9月20日時点で学会会費納入済の費用は223万円。10月以降の半年であと70万円の歳入が入るのかという問いが出された。予算見込みのとおり収入が入るよう、事務局としての努力を進めていく。

第3号議案 2014年度以降の事業のあり方と予算組みの検討について

- ・島田副学会長より説明。
- ・3年間会費納入がない会員は規約に基づき退会となっているが、近年こうした退会で会員が大幅に減少しており、それに伴い会費も大幅に減少しており、現状このままいけば2015年度には繰越金がなくなる見通し。
- ・繰越金を会員に還元するため災害支援等に使用したが、今後予算は厳しくなっていくと考えられる。
- ・対策として、①会員増強、②学会事業費の圧縮が必要である。
- ・会員増強のためには、学会員を対象とした活動だけでなく、非学会員が参加可能な活動を進

めるなどして、それぞれの場所でできるだけ多くの方に学会の活動を知っていただき、参加していただく必要がある。広報の工夫なども検討しているが、理事をはじめ学会員の方からのアイデアを求めたいと島田理事より提案があり、他理事からも非学会員の学会活動への参加を進めることに対して賛成の意見が出された。

- ・学会として研究助成金を受けることはできないのかという質問が出され、この質問に対しては河東田会長より、今年度2つ助成金を応募したが不採択であったこと、科研費申請については福祉文化に関する理解を示していただくことはなかなか難しく採択の可能性が低いと考えられるという回答があった。研究助成金の応募に関しては、小規模な助成金も視野に入れながら、次年度も引き続き申請を続けていく予定である。
- ・第5号議案で検討された2014年度予算案の修正にともない、ブロック助成金の金額は減額せず、5万円を維持する。

第4号議案 2014年度事業方針（案）

- ・島田副会長より説明。
- ・重点目標として、①ブロック活動・委員会の組織的運営と会員参加活動の促進、②災害支援のための研究および実践活動の継続的推進、③福祉文化現場セミナーの継続と充実、④国際交流福祉文化活動の取り組みの強化（韓国をはじめ日本にきている留学生を大切にしながら、交流を進めていく）、⑤新役員体制へのすみやかな移行と新企画への意欲的な取り組み（2014年に選挙をおこない、2015年4月からの新体制にスムーズに移行できるようにする）、⑥全国大会・会員総会の開催と内容の充実、が提起された。
- ・研究委員会がよもやまゼミナールを開催し、福祉文化研究への質を深めるべく努力していることを鑑み、「福祉文化研究の新たな展開」を重点目標の1番に加え、他項目については番号の繰り下げをおこなう。
- ・第25回全国大会については、大分県別府市 泰生の里を会場として、雨宮洋子会員にお引き受けいただくこととなった。また、日程は2014年10月4日（土）、5日（日）に決定された。

第5号議案 2014年度予算書（案）

- ・事務局より説明。
〔2014年度収支予算書の各項目の内容について〕
- ・学会の収入減への対応として、支出の削減案は示すだけでなく、収入を増やす方途を示したという意見がだされた。（例；大会開催時に、広告費をとれるようにする）
- ・収入の欄に寄付金の項目があるが、実際は0円となっているため、寄付金集めの策を練ることが提案された。
⇒寄付の目的が明記されたほうが寄付金を集めやすくなるため、寄付の名目を災害支援とし、災害支援活動費を寄付金によって支えることとする。寄付金の見込みは20万円とする。
- ・予算書では、事業費よりも事務管理費のほうが多くなっているが、そのような状態は、積極的な学会運営を示す上で問題がある。事務管理費と事業費が同じ程度の金額になるようにしたほうがよいと提案がだされた。
⇒一般会員会費300万、寄付金を20万と修正して、30万円収入をあげることにより、事業費予算を30万上乘せする。支出については、災害支援活動費を20万とし、地方ブロック活動費は2013年度予算と同額の30万とする（1ブロックあたり5万円とする）。その結果、事業費は総額192万円となり、事務管理費よりも若干高い水準となった。
- 〔収支予算書の記載方法について〕
- ・収支予算書の記載方法については、以下のような意見が出された。
 - ・収支予算書の記載方法については、2013年度予算ではなく2013年度決算見込みを参照しながら2014年度予算をたてるべきではないか。
 - ・学会では様々な活動がなされており、予算書に反映されないかたちの金額が動いているにもかかわらず、個々の事業ごとに動いている金額が反映されていない。予算書の組み方を

現実の学会の活動に見合うかたちに修正したほうがよい。

- ・収入項目に事業収入をいれて、項目の組み換えをおこなってはどうか。大会参加費などをいれれば、30万円くらい収入はあがるはずである。
 - ・理事会・ホームページの項目を事務管理費から事業費に移動させてはどうか。
- ⇒事業収入の組み込み等予算書の記載方法の変更は、学会の予算編成の大きな変更になってくるので、理事会での再検討事項となった。

〔その他〕

- ・2014年におこなう選挙については、2012年から各年15,000円ずつ積み立ててきた合計4,5000円で実施することが説明された。
- ・寄付を少しでも増やすため、大会時に寄付の箱を受付におくこととなった。

第6号議案 ブロック分けに関する考え方について

- ・木村総務担当理事より説明。原案通り承認された。
- ・ブロック分けについては現行の形態を維持しつつ、合理的・機能的活動ができるようにすることが確認された。ブロック間が共催して活動をしたり、会員の少ないブロックは事務局や他ブロックと共同して事業をおこなうことが提案された。クロスブロックによって、内実を変えていくことには賛成の意が示された。
- ・ブロック分け再編成については福井の石井理事から提案がでたが、平田理事から静岡についても文化圏としては中部・東海というより関東に属する場合が多いと意見が出された。

第7号議案 2013年度福祉文化実践学会賞について

- ・石田福祉文化実践学会賞選考委員会長から説明。原案通り承認された。
 - ・福祉文化実践学会賞選考委員会では、3件の推薦があがり、結果的に「社会福祉法人 泰生会 泰生の里」（代表 雨宮洋子氏）が選ばれた。
- ⇒雨宮会員より学会奨励賞5万円の寄付のお申し出があった。

第8号議案 名誉会員に関する規約及び規則についての検討について

- ・島田副会長から説明。原案通り承認された。
- ・日本福祉文化学会規約と日本福祉文化学会名誉会員規則の間に齟齬があった。規約よりも規則の方が前につくられていたため、規約の文章を規則に合わせて統一させることとする。
- ・名誉会員の決定については、名誉会員規則にあった「日本福祉文化学会会員は」という文章を規約に付加する。
- ・名誉会員の推薦については、会員規則を「日本福祉文化学会会員」が推薦できるようにする。

第9号議案 会員の弔慰に関する申し合わせ

- ・木村総務担当理事（事務局？）より説明。
- ・会員の弔意の際の学会の対応としては、現役の役員のみでなく名誉会員についてもお悔やみのお知らせの掲載とともに弔意電報をお送りすることとなった。

第10号議案 会員メーリング運用方法について

- ・事務局より説明。原案通り運用の方向性が承認された。
- ・会員メーリングリストは、各ブロック運用可能なところから漸次進めていくこととする。
- ・ブロック担当理事がメーリングリストの管理をすべてしなければならないのではなく、個人情報に留意しながら理事が依頼した方に管理を依頼することができるような仕組みを検討していくことが確認された。

第11号議案 来年度の全国大会開催地について

- ・河東田会長より経過説明。第4号議案で、協議・報告されたとおり、別府市 社会福祉法人 泰生会「総合ケアセンター泰生の里」で、2014年10月4日（土）、5日（日）に実施される

こととなった。

- ・ 雨宮理事より、大会詳細について現在検討中であり、テーマとしては「生活ステージの視点から見る福祉文化」をテーマとしてはどうかと考えていると報告があった。

第12号議案 第6期役員選出に関するスケジュールについて

- ・ 事務局より説明。
- ・ 議案に書かれた「選挙人名簿」は、「被選挙人名簿」に修正する。
- ・ 元理事で2期目満了となる役員は、今回の役員選出の対象外となるため、「被選挙人名簿」からはずされ、現在の役員の約半数は入れ替わることとなることが確認された。
- ・ 第25回別府大会で新理事を承認するため、投票用紙の集計終了後は、大会当日までに新学会長や副学会長を選出しておく必要がある。そのため、第2回理事会前に事前に集まっていた新理事・学会長を決定することとなる旨説明がなされた。

第13号議案

- ・ 事務局より説明。高齢者アクティビティ開発センターより、アクティビティ・ケアフォーラムの後援依頼が提案されているため、高齢者アクティビティ開発センターには後援依頼を出していただき、必要な手続きを進めていただくことが決定した。

6. 報告事項

事務局より報告事項について説明がなされた。

報告事項1 会員状況（2013年9月20日現在）（学会事務局）

- ・ 新規会員については2名重複があったため、削除する。（2013年新規入会者14名→12名）
- ・ 現会員 356名、新規会員12名、ご逝去退会2名、自主退会1名、学会費3年度未納退会候補者。
- ・ 現会員は356名。3年間会費未納者で規約に基づく退会者は25名程度。
- ・ 学会費滞納会員については、お声かけ可能な方に関しては、お声かけをお願いしたい。
- ・ 関谷秀幸会員は、近日入金予定とのこと。

報告事項2 倉敷大会の報告書について

- ・ 倉敷大会の実行委員会を解散してしまい、倉敷大会報告所の作成が不可能となったことが報告された。


報告事項3 第24回全国大会・東京大会運営状況（東京大会実行委員会）

- ・ 9月28日時点参加申し込みがなされたのは、1日目参加者113名、2日目110名でのべ合計223名参加を予定している。
- ・ 懇親会48名申し込み。

以上で2013年度第2回理事会は終了した。

2013年11月24日

議事録署名人

馬場 清 

議事録署名人

國光登志子 